

第9回教育委員会（定）

開会日時 令和5年 4月 27日（木） 午前 10時00分
閉会日時 午前 10時53分
開会場所 教育支援センター

出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐紀子
委 員	長 沼 豊
委 員	野 田 義 博

出席事務局職員

事務局次長	水 野 博 史	地域教育力担当部長	雨 谷 周 治
教育総務課長	諸 橋 達 昭	学 務 課 長	金 子 和 也
指 導 室 長	氣 田 眞由美	新しい学校づくり課長	柏 田 真
学校配置調整担当課長	早 川 和 宏	生涯学習課長	伊 東 龍一郎
生涯学習課長	太 田 弘 晃	地域教育力推進課長	河 野 雅 彦
教育支援センター所長	石 野 良 恵	中央図書館長	松 崎 英 司

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 現時点では3名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。
それでは、ただいまから令和5年第9回の教育委員会を開催いたします。

本日の会議に出席する職員は、水野次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長、金子学務課長、氣田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、伊東施設整備担当副参事、太田生涯学習課長、河野地域教育力推進課長、石野教育支援センター所長、松崎中央図書館長、以上12名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により高野委員にお願いいたします。

本日の委員会は2名から傍聴申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

初めに、非公開による審議とする案件の確認をいたします。日程第一 議案第40号「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定方針（案）について」は、6月の文教児童委員会で報告を予定している案件のため、公開で審議を行う場合、具体的かつ自由な討論、質疑ができないおそれがあるため、一時非公開による審議とし、議事進行の都合上、委員会の最後に処理することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように処理いたします。

○報告事項

1. 令和4年度東京都板橋区一般会計予算繰越明許費に係る繰越計算書について
(学-1・学務課)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告1「令和4年度東京都板橋区一般会計予算繰越明許費に係る繰越計算書について」、学務課長から報告願います。

学 務 課 長 では、学務課の方からご報告いたします。

資料は「学-1」でございます。

令和4年度東京都板橋区一般会計予算繰越明許費に係る繰越計算書についてでございます。

まず、1、事業名につきましては、「学校における感染症対策事業」でございます。

2、事業の概要でございます。

こちらが、感染流行下におきます、各学校での感染症対策の経費にあてるものでございます。

3、繰越明許の理由でございます。

こちらは、国の補助金の交付に伴いまして、令和4年度の最終補正によりまし

て、約1,850万程度増額補正であります。

こちらの金額も、令和5年度に繰り越してして、令和5年度中にこの1,800万を執行していくというような内容でございます。

ちなみに、令和3年度におきましても同様の会計処理をしております、令和3年度で繰り越したものを令和4年度で執行してきたというようなことでございます。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

2. 令和5年度教科用図書調査委員会委員の任命について

(指-1・指導室)

教 育 長 それでは、報告2「令和5年度教科用図書調査委員会委員の任命について」、
指導室長から報告願います。

指 導 室 長 よろしくお願いたします。

令和5年度の教科用図書の調査委員会委員の任命についてでございます。

東京都板橋区立学校教科用図書採択事務規則第4条の規定に基づきまして、令和6年度から板橋区立小学校で使用する教科用図書の調査研究を専門的に行うために、教科用図書審議会に教科用図書調査委員会を設置いたします。

調査委員会では、文部科学省の検定を合格した教科用図書につきまして、各教科等に分かれて調査研究をし、報告書を作成して、教科用図書審議会に報告をいたします。

調査委員会は、学校・園の校長、園長、副校長、副園長、教諭のうちから、板橋区教育委員会が任命する委員をもちまして組織をし、構成は各教科7人以内、ただし、特別支援学級は13人以内となっております。

委員としましては、区立中学校から各教科等に12の部会、合計88名を推薦いたします。

任期につきましては、任命の日から8月31日までとなっております。

調査委員会の委員名については、公正な採択実施のため、採択を東京都教育委員会へ報告する期限であります8月31日まで公表はいたしません。

本日、任命後、3週間程度をかけまして調査研究をする予定でございます。

説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(なし)

○報告事項

3. いたばし魅力ある学校づくり審議会第7回の開催状況について

(配－1・学校配置調整担当課)

教 育 長 それでは、報告3「いたばし魅力ある学校づくり審議会第7回の開催状況について」、学校配置調整担当課長からご報告願います。

学校配置調整担当課長 では、「配－1」、いたばし魅力ある学校づくり審議会第7回審議会の開催状況でございます。

まず、こちらでは議題が4項目ございまして、1項目目では、前回審議会における見解、また第6回小委員会の報告を行ってございます。

こちらの1つ目と2つ目は、資料に基づいてご説明をさせていただきます。

3/22ページ。別紙1をお開きください。

こちらの第6回審議会では、大規模化対応、小中一貫型学校について議論をいただいております。

1件目の大規模化対応では、こちらの1番と4番にございますように、多様な学習を実現するための環境を確保するための配慮や、学校規模による差が生じないような配慮をしつつ、児童・生徒や教員が多いことよさを生かすことで、大規模校が魅力的なものになるといったご意見をいただいております。

2点目の小中一貫型学校については、7番から12番にございますが、特徴的な取組や効果、14番の学校設置に向けて、小中教員が合同で学校運営を検討することの必要性。

また、19番では小中一貫型学校ならではの心配事についてご意見をいただいた一方、18番、22番にございますように、小中の教員が一体となった体制となることで複眼的に学校が直面する課題に対して解決策を考えていけるのではないかとといった意見をいただいております。

次のページ、6/22ページから、第6回審議会後に開催した小委員会についての報告でございます。

小中一貫型学校について、主に3点から議論を深めてございます。

こちらは、四角囲みの中が小委員会のまとめとなっております。

まず、課題などの整理と取扱いといたしまして、審議会で人間関係の固定化といった言及がございましたが、こちらは小規模の学校や、他に選択肢がない状況で生じるものであり、区にそのまま当てはまるものではないこと、また、新たな選択肢である小中一貫型学校では、既存の課題解消のためだけではなく、義務教育9年間を通して、めざす子ども像を示し、特徴的な取組を検討、推進することが重要であるといったように整理されてございます。

次に、施設更新の観点でいいますと、小中一貫型学校の設置が教育環境の充実に寄与することを踏まえて、今後の学校施設の更新、老朽化を検討していくとき

れており、最後の整備条件というところでは、学校ごとの学級数や通学区域は様々に異なっているため、一概に整備することは難しいものの、こちら、①、②にございますように、小学校と中学校の通学区域の整合性や就学傾向と学校の移転を伴う場合、通学に係る安全性の2点に考慮することが望ましいと整理されてございます。

冒頭の1/22ページにお戻りください。

ここまで確認いただいた後に、小中一貫型学校について、項番3のとおりにまとめてございます。

小中一貫型学校には多くの教育効果が期待できることを認識しつつ、周辺小学校からの進学者と内部進学者との間で人間関係の構築に差が出ないように配慮する必要性を踏まえて設置を検討する必要がある、と議論いただいております。

また、小中一貫型学校の設置は、小中一貫教育を推進し、ひいては子どもたちのよりよい成長のための1つの手段であることを認識し、学校や地域の実情を踏まえて特色ある学校づくりを進めていく必要があるとご議論いただいたところでございます。

次の、4の施設内容・施設更新では、令和4年3月に国から出されました「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の資料を参考にしつつ意見交換をいただいております。

委員から挙げられた意見といたしましては、学校や生徒と連携した学習環境づくりや、財政状況、また、高層化改築、学校機能の充実を含めた長寿命化についてのご意見をいただいたところでございます。

次回の審議会は、6月30日となります。

配-1につきましての報告は以上となります。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

4. 令和4年度中高生勉強会「学びiプレイス」実施報告について

(生-1・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告4に移ります。「令和4年度中高生勉強会「学びiプレイス」実施報告について」、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長 よろしく願いいたします。「生-1」をご覧ください。

令和4年度中高生勉強会「学びiプレイス」の実施報告でございます。

1、実施期間につきましては、令和4年4月12日から令和5年3月10日でございます。

2、日時・会場・実施回数・参加状況につきましては、記載の5会場で、年間

200回、登録者数が163人、延べ参加者が1,518人で行いました。

前年度の延べ参加者が1,101人で行います。

登録者数の推移と平均参加者数の推移をグラフでお示しさせていただいております。

その下の3で行います。

学年別参加状況は記載のとおりで行いまして、7年生が377人、8年生が275人、9年生が208人、高校1年生が301人、2年生が89人、3年生が268人という結果で行います。

2ページ目をご覧ください。

4、委託事業者につきましては、特定非営利活動法人キッズドアで行いまして、5、委託料につきましては、11,088,000円で行いました。

6、実施状況及び内容で行います。

令和4年度につきましては、当初の計画どおり、5会場で各40回（計200回）開催させていただきました。令和4年度の参加状況は、登録者数、延参加者数ともに令和3年度よりも増加いたしました。延参加者数は、コロナ前の令和元年度の実績（1,545人）とほぼ同等の参加が行いました。

全体の参加者のうち、中学生が6割、高校生が4割となっております。令和3年度との比較につきましては、高校生の参加が若干増えているという状況で行います。

（1）学習支援をご覧ください。

参加者が持参する教材を使いまして、個々の状況に応じて学習をサポートする寄り添い型の支援を行いました。学校の宿題・課題に取り組む生徒も多く、定期試験の前には試験に向けた学習に集中する様子が多く見られました。

夏休みの取組の事例を3点ほど紹介させていただきたいと思います。

①中学校の数学復習講座、高校1年生のものとなります。

高校での数学の学習につまずいている状況に行いました参加者の方に、中学の数学を総復習し、高校の数学の理解を助けることを目的といたしまして、個人講座を実施したものでございます。その後も意欲的に勉強しているとの報告を受けているところでございます。

②都立高校の入試対策講座、こちらは9年生のものでございます。

都立高校への進学希望の9年生2人を対象にいたしまして、過去4年分の数学の入試問題を使用し、演習の方を行いました。通塾していない参加者へ受験の不安を払拭し、心構えなどの醸成を図ったところでございます。

次、事例の③で行います。英語復習講座7年生です。

小学生の時から不登校の状況にある参加者に対しまして、専用の学習プランを作成し、英語の学習を支援いたしました。

当初、アルファベットが書けないような状況でありましたが、このプランに沿って学習し、1学期の学習範囲まで進めることができました。

現在も学習を継続しており、ボランティアの方のような英語が話せるようになりたいという夢を持って取り組んでいるという報告を受けてございます。

3 ページ目をご覧くださいと存じます。

(2) の相談でございます。

本事業では、中高生と年齢の近い大学生等のボランティアや事業者スタッフが支援者となり、参加者にとっては話しやすい雰囲気や関係性が醸成されているところでございます。

学習面につきましては、勉強の仕方や、進路に関しての相談が多く、支援者が話を聴いた上で、一緒に考え、提案や必要な情報提供を行うなど、丁寧な対応に努めております。

参加者の中には、学校生活や家庭環境に起因して、困り事やストレスを抱えている中高生もおりまして、本事業内で対応が難しい場合には、子ども家庭総合支援センターにつないだケースもございました。

こちらについても事例を2件ほどご紹介させていただきたいと思っております。

①大学の総合型選抜に対応した受験対策、高校3年生のものでございます。

選抜試験で多い小論文や面接につきまして、企業で採用担当の経験を持つ社会人ボランティアを中心に試験対策を行ったものでございます。

②生徒の希望を反映させたイベントの実施、こちらは7年生のものでございます。

不登校の状況にある参加者から「同年代の子と仲よくなりたい」という相談を受けまして、交流のツールといたしまして、誰もが参加しやすいボードゲームを利用したゲーム大会を実施したところでございます。

続きまして、(3) 交流及びキャリア支援をご覧ください。

各種のイベントを実施し、参加者同士、参加者と支援者が交流を深めることによりまして、居場所機能の充実や、参加者が自身の将来のことや進路を考えるきっかけを提供するなど、キャリア支援を行ってまいりました。

こちらの事例を数点報告させていただきます。

①七夕イベント、こちらの方は全会場で実施したものでございます。

参加生徒と支援者が一緒に七夕飾りを作り、短冊にはそれぞれの願い事を書いて飾りつけを行いまして、楽しんだところでございます。

②なんでも発表会、こちらは成増の会場で行ったものでございます。

参加2年目の中学生2人から、支援者と生徒が互いを理解するために、これまでの経験や好きなことなどをプレゼンするイベントの方をやりたいというような声が上がりがまして、支援者2人と参加者生徒2人が自身のことを発表するイベントの方を実施したところでございます。

引き続き、4 ページ目をご覧ください。

②キャリアイベントです。

事例の1点目につきましては、ノート大公開イベントでございます。

支援者が中高生時代に使用していたノートや教材、単語帳などを持参しまして、参加者が自由に見られるよう、会場内で公開したものでございます。

2点目につきましては、「キャリア×クイズイベント」という形になってございます。

参加者と支援者が5人程度のグループを作りまして、裏返しで並べたお題の書かれたカードを引まして、書かれたお題に答えて順に話をするといった形で、楽しみながらキャリアについて考える機会を提供したところでございます。

3点目でございます。

アクセンチュアのオフィスツアーでございます。

こちらにつきましては、昨年12月の教育委員会で報告させていただいた案件になりますので、説明は省略させていただきたいと思っております。

5ページ目をご覧ください。

参加者に対するアンケートの方を実施してございます。

回答者数は40名となっておりまして、多い回答順に見ていきますと、①で本事業を知ったきっかけといったところで、「家族が教えてくれた」、「友達の紹介」、「チラシ」といったところになっております。

2番目の参加動機につきましては、「苦手科目の克服」、「勉強できる場所」、「学校の宿題」といった答えが多くなっているところでございます。

3番目の本事業への参加歴でございますが、「1年目」と「2年目」で全体の4分の3でございますが、「6年間」ずっと通っていたという方も10%となっております。

4番目、参加の頻度といったところでございますが、こちらで一番多いのは、「毎週」といったものが一番多くなっております。継続参加が高くなっているところでございます。

5番の継続参加の理由でございます。「勉強ができる」、「話せる」、「通いやすい」といったところが多くなっております。6番目、主に学習している科目につきましては、「英語」と「数学」が多いというような状況になってございます。

7番目の主に学習している教材につきましては、「学校のワークブック」や「宿題」という形になってございまして、8番目の勉強面での変化というところでございますが、「分かるところが増えた」ですとか、「楽しくなった」といった答えが多くなっております。

9番目の勉強面以外での変化につきましては、「大人と話せるようになった」ですとか、「居場所が増えた」といったところが多くなっております。

10番目の本事業への評価につきましては、「とてもよかった」と「よかった」が97%と、非常に高い評価をいただいているところでございます。

11番目の評価の理由でございます。

4点、拮抗している形となっております。記載のとおりでございます。

12番、事業に対する要望でございます。

こちらにつきましては、「特になし」といったものが多かったのですが、その他につきましては、「土日に実施してもらいたい」といった意見が多くなっているところでございます。

13番の支援者のところでございます。

スタッフ・ボランティアにつきましても、よい評価が多くなっているというよ

うな状況でございます。

14番のところで、自由意見につきまして、スタッフ・ボランティアへのメッセージと事業に対する意見や感想を分けて記載させていただいているところでございます。かなり多く挙がっておりますので、説明は省略させていただきたいと思っております。

雑駁ですが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 個々の状況に応じた学習支援やキャリア支援、あと、参加者の声を反映した、イベントの実施など、また、夏休みを中心に大学生が個々の生徒と共に目標や学習プログラムを作成して個別指導に当たるなど、充実した事業が行われたと思います。

また、私は最後の自由意見のところを読んで、利用した生徒たちからのアンケートでこの事業の素晴らしさがよく分かりました。

今後、この事業を周知したり、事業案内をする際には、ぜひ、このような子どもたちの生の声が届くようなことで、もっと身近に感じていただいて参加者が増えるといいなと思います。

生涯学習課長 ありがとうございます。生の声が届くようにといったご意見をいただきましたので、その形に添って周知をさせていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

教 育 長 その他、いかがでしょうか。

これは、ちなみに毎回集まって、定員というのがあるのですが、それを超えてしまっても出られないなんていう、そういう子は実際にはいなかったのでしょうか。

生涯学習課長 これまで定員を超えたことは何度かあったのですが、場所を拡大といいますか、座る座席等を拡大するといったところで、こぼれないような形で対応をさせていただいております。

教 育 長 そうですか。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

5. 第22回(令和5年度)櫻井徳太郎賞論文・作文募集について

(生-2・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告5「第22回(令和5年度)櫻井徳太郎賞論文・作文募集について」、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長

「生－２」をご覧ください。

第２２回（令和５年度）櫻井徳太郎賞の論文・作文の募集についてでございます。

１、趣旨でございます。

民俗学・歴史学・考古学等を通じまして、地域を基盤にした学問の発展・発達と、地域を生かす立場から研究を進める人材の育成を図るとともに、次代を担う青少年の地域研究の奨励と郷土愛を育むことを目的として実施するものでございます。

２、論文・作文等の募集でございます。

全国より、一般は論文、小・中・高校生は作文等の一般公募を行うところでございます。

一般の部は、大学生、大学院生を含む形とさせていただきます。

高校生の部と小中学生の部に分けて実施をいたします。

３、公募のPRでございます。

（１）区ホームページ、区教育広報、（２）全国の民俗学講座設置大学及び主要大学への協力依頼、ポスター掲示依頼でございます。

（３）民俗学・歴史関係学協会等での告知依頼、（４）私どもの生涯学習課文化財係・郷土資料館と交流のある全国の教育委員会及び博物館・資料館などへの協力依頼、ポスター掲示を依頼したところでございます。

（５）２３区内の国公立小・中・高校へ協力依頼を予定してございます。

また、区立小学校の校長会に対しましても、周知をさせていただく予定でございます。

（６）公募ガイド、その他歴史民俗関係雑誌へ掲載の方をさせていただく予定でございます。

４、論文・作文の審査でございます。

昨年度から、同様に、審査会を実施して、認定をしたいと考えてございます。

審査委員の先生につきましては、記載の４名の方を予定しているところでございます。

５番、入賞作の発表・公開。

（１）でございます。「一般の部」大賞（奨励賞）論文及び「高校生の部」、「小・中学生の部」の入賞作は、受賞論文・作文集に掲載させていただきます。

（２）板橋区ホームページにおきまして、「一般の部」の大賞論文の概要及び「高校生の部」、「小・中学生の部」の入賞作を公開いたします。

（３）「小・中学生の部」につきましては、最終選考に残った作文題名・氏名・学校名・学年を、受賞論文・作文集に掲載させていただきます。

６、表彰と副賞でございます。

（１）一般の部は賞金を、（２）高校生の部（３）小中学生の部におきましては図書カード、金額は記載のとおりとさせていただく予定でございます。

次のページに行ってくださいまして、７、いたばしふるさと学習奨励賞でござ

います。

今年度につきましても、板橋区の地域や歴史につきましても、学習活動などに顕著な努力が見られた板橋区内の学校、または個人に対しまして、いたばしふるさと学習奨励賞を贈りたいと考えてございます。

参考までに、昨年度の対象校の方を記載させていただいている状況でございます。

8のスケジュールでございます。

5月に募集要項・ポスターの方を発送いたしまして、小中学生の部は9月6日まで、高校生の部、一般の部につきましては9月25日まで、募集をしたいというふうに考えてございます。

11月上旬に第1回の審査会を開催いたしまして、12月上旬に第2回の審査会を開催し、受賞者を決定したいと考えてございます。

授賞式につきましては、令和6年3月上旬を予定しているところでございます。雑駁でございますが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 授賞式に参加させていただいて、受賞者は主に小学生だったのですが、2回、3回と続けて受賞する子どもたちが多かったのがとても印象に残っています。
それぞれ次の目標を決めて、また1年かけて色々な題材に取り組んでいる姿が見られました。大変いいことだと思います。
学校での対応ももちろんですが、郷土資料館ですとか、そういうところも協力していただいて、素晴らしい賞になってきたなと思いました。

生涯学習課長 ありがとうございます。

教 育 長 他にありませんか。

i (あい) カリキュラムの中で、郷土愛の醸成というところを昨年度末に示しているわけなのですが、そのような辺りから、この櫻井徳太郎賞への小学校、中学校の作文の募集が増えてくれると嬉しいなと思うのですが、ぜひ、郷土愛の醸成ということを掲げている以上、このようなことに積極的に参加するよう呼びかけをよろしくお願ひしたいなと思います。

その他、いかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○報告事項

6. 令和4年度板橋グリーンカレッジの実施報告について

(生-3・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告6に入ります。「令和4年度板橋グリーンカレッジの実施報告

について」、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長

「生－３」をご覧ください。

令和４年度板橋グリーンカレッジの実施報告についてでございます。

板橋グリーンカレッジにつきましては、平成６年に開校いたしまして、令和３年度まで区長部局で事業を実施してまいりました。

昨年度より教育委員会に所管替えを行いまして、令和６年度をめどに多世代化ができるように、今現在、準備を進めているところでございます。

本日は、令和４年度の実施状況などをコンパクトに報告させていただきたいと思っております。

１、運営概要でございます。

板橋グリーンカレッジにつきましては、高齢者大学校及び大学院で構成しております。

実施形態は、原則、講義形式で行っているところでございまして、いずれも、毎年１月下旬に広報いたばしやホームページで募集させていただいているところでございます。

講義につきましては、シニア学習プラザの３階の教室にて行いまして、概要の詳細につきましては、別紙１をつけさせていただいております。後ほど、別紙１をご覧くださいと思っております。

今日のところにつきましては、別紙１につきましては説明を割愛させていただきます。

２でございます。

令和４年度の実施状況でございます。

（１）教養課程につきましては、１１７名の方が修了いたしまして、令和５年度の専門課程に進学しているところでございます。

（２）専門課程の進学者につきましては、１２９名のうち、卒業した方が１１２名という形でございました。

（３）大学院につきましては、４７名の方がご卒業されたところでございます。それぞれ、詳細の内訳につきましては記載のとおりでございます。

なお、（１）の教養課程と（２）の専門課程のうち、聴講者でございます。こちらは応募者多数で抽選したところでございます。

それから、（３）大学院につきましては、申込者が定員を下回っているため、無抽選での実施といった形になってございます。

３、実施の経過でございます。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、大学院を除き、全て休校としてございました。

令和３年度からは、感染拡大防止に努めまして、定員を、従来の１６０名から、半分程度の８０名といった形に減らして実施しているところでございます。

また、冒頭申し上げましたが、令和４年度から長寿社会推進課から生涯学習課に事業を移管して初年度の運営といった形になりました。

4でございます。新たな取組でございますが、こちらの「オープンキャンパス」につきましては、昨年度の教育委員会で既にご報告をさせていただいた内容となっております。

詳細につきましては、別紙2に記載してございますので、後ほど、ご確認の方をお願いしたいと思っております。

多世代向けに実施いたしましたオープンキャンパスでございますが、参加者から大変好評をいただきました。今年度につきましても、引き続き実施したいというところで、今、準備を進めているところでございます。

5でございます。今後の展望でございます。

令和6年度をめざしまして、多世代化が実現できるよう、現在、枠組みですとか講義内容の検討を進めているところでございます。方向性が決定しましたら、改めてご報告させていただきたいと考えているところでございます。

また、令和5年度で現在の指定管理者の契約期間が満了いたしますので、現在、令和6年度の業務と事業者の選定の準備を進めているというところを併せて行っているというところでございます。

雑駁ですが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

野 田 委 員 ご説明ありがとうございます。この大学と大学院の課程というところでは、それぞれ修了した場合には、何か修了証みたいな、そのようなものは授与されるのでしょうか。

生涯学習課長 ありがとうございます。大学校、大学院につきましても、卒業式がございまして、卒業式のところで、まず、区長から代表の方にそれぞれ修了証を渡させていただきまして、他の方につきましては、私どもから全ての方に修了証をお渡しさせていただくというような形になってございます。

野 田 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 よろしいですか。

これは、今、板橋区高齢者大学校とか、グリーンカレッジ大学院というふうにな名前がついていて、60歳以上という年齢制限があるわけですが、今後、多世代に広げるという場合は、その辺りのことはどういうふうにお考えになっていらっしゃるのですか。

生涯学習課長 名称等につきましても、今後、検討していきたいというふうに考えているところでございまして、令和6年度をめどにリニューアルしたいというふうに考えているところでございます。

教 育 長 ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

(なし)

○報告事項

7. NPO法人 Learning for All と連携した生涯学習センター
における若者支援の継続について

(生-4・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告7「NPO法人 Learning for All と連携した
生涯学習センターにおける若者支援の継続について」、生涯学習課長から報告願
います。

生涯学習課長 資料の「生-4」をご覧いただきたいと思います。

NPO法人 Learning for All と連携した生涯学習センターに
おける若者支援の継続についてでございます。

3月の教育委員会で、連携事業は4月で終了、5月以降は委託の形になるとい
った形でご説明させていただいたところでございます。

その後、NPOとの協議の中で、大原生涯学習センター i-youthにおき
まして、週2日の居場所支援、登録型の寄り添い支援、食糧提供に関する委託事
業以外にも、地域や近隣学校、子ども家庭総合支援センターなどと積極的に連携
を図っていくといったところがNPO法人との間で整いましたので、本日、改め
まして資料を作成いたしましたして、訂正させていただくといった形でございま
す。

1をご覧ください。

LFAの概要及び令和3年10月より生涯学習課、センターと連携を開始した
旨についての記載をしているところでございます。

2のところは連携の目的となっておりまして、生涯学習センターとLFAが
連携して若者支援に取り組むことによりまして、全ての子どもたちが前向きな気
持ちで夢や希望を持つことのできる社会の実現をめざすことを目的としていると
いう形でございます。

具体的には、i-youth利用者のうち、困難度が高い若者への寄り添い型
の支援や、周辺の地域や学校との情報交換、必要に応じまして適切な支援機関へ
の接続を実現するといったものでございます。

3、事業内容でございます。

(1) 大原生涯学習センター i-youthにおきます週2日の居場所支援・
登録型寄り添い支援・食料提供が、5月から、こちらが委託事業といった形にな
ります。

(2) 志村一・二中のCS委員会へのオブザーバー参加と、(3) 子ども家庭
総合支援センターや大原生涯学習センター周辺学校等との連携促進が継続して実
施する連携事業という形でございます。

なお、先日の説明では補助金が確定していなかったという形になってございま

すが、国との協議が調う見込みとなりましたので、※で、「令和5年度地域子どもの未来応援交付金」のことを、今回、初めて記載させていただいているといったところでございます。

4、今後の予定でございます。

4月に、記載しております委託業務に関する個人情報保護の手続きにつきましては、既に終了しているところでございます。

令和5年度地域子どもの未来応援交付金の交付申請につきましては、現在、進めているところでございます。

5月に入りますと、LFAと協定を締結いたしまして、事業の委託の契約を行い、活動を開始するといった形でございます。

雑駁ですが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。これは単年度なのですか。

生涯学習課長 契約的には単年度契約といった形になりまして、委託事業を続けていきたいというふうに考えているところでございます。

教 育 長 よろしいでしょうか。

(なし)

教 育 長 それでは、次に、教育委員会次第にはありませんが、追加報告事項はありますでしょうか。

(なし)

教 育 長 それでは、先ほど申し上げましたように、日程第一 議案第40号については、非公開として聴取いたします。

なお、この議案をもって本日の教育委員会は閉会いたしますので、傍聴人の方はご退席願います。ありがとうございました。

(傍聴人 退席)

○議事

日程第一 議案第40号 板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定方針(案)について

(教育総務課)

教 育 長 それでは、日程第一 議案第40号「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定方針(案)について」、次長と教育総務課長からご説明願

ます。

次 長 まず、議案第40号でございます。
板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定方針（案）について、議案を提出いたします。
提出者は、中川修一教育長になります。
部活動改革、部活動の地域移行につきましては、今年の1月13日の教育委員会においても、一度、報告をさせていただいております。
その中では、スポーツ庁、文化庁の提言を受けて、板橋区においても部活動改革を進めていくこと、また、部活動の改革に関しての推進計画を策定するなどの説明をさせていただいております。
本日は、その推進計画に当たる推進ビジョンの策定方針につきましてご審議いただきたいと思っております。
詳細につきましては、教育総務課長から説明させていただきます。

教育総務課長 それでは、説明いたします。資料を続けてご覧ください。
まず、行政計画を策定するときのプロセスなのですが、通常、策定方針を示しまして、その上で骨子案を作り、素案を作り、そして完成の原型となるものをお示しし、これで議会等にお示ししまして、公開されていくというプロセスになります。
今回は、その最初の部分の策定方針をお示しする内容のものになっております。
それでは、中身について見ていきたいと思っております。
1、策定の目的でございます。
1段落目なのですが、部活動というものは大変意義のあるものであるということ、ここは揺るがないものです。
ただ、2段落目のところ、一方なのですが、少子化の問題であったり、先生の長時間労働であったりというところがありまして、公立学校の部活動につきましては、持続可能性が非常に厳しいという状況がございます。
そこで、3段落目でございます。
そこで、国の提言に基づきまして、現行部活動をSDGsの視点で見詰め直すとともに、誰一人取り残すことのない活動として、学校部活動とはまた別の新しい価値を持った持続可能なクラブ活動を、地域移行という手段により整備、また、学校部活動の改革を契機として、中学生にとどまらず、多様な世代が参加する地域のスポーツ環境及び文化芸術環境の充実を図る機会とし、生涯にわたりスポーツや文化・芸術、学問に親しめる生涯スポーツ社会・生涯学習社会をめざすということを策定の目的としたいと思っております。
続きまして、2、計画の位置づけに参ります。
このビジョン2030は、国のガイドライン、これに基づきます学校部活動の地域移行に関する推進計画として策定をいたします。
もう1つなのですが、いたばし学び支援プラン2025及び板橋区立学校にお

ける働き方改革推進プランに基づく、学校における働き方改革及び部活動改革の推進に係る具体的な推進計画として位置づけたいと思っております。

それらを絵にしたものが下の図になっています。

ページを送っていただきまして、PC上は3/5になりますが、3、計画期間でございます。

2つございます。

まず、板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030。こちらは、計画期間を令和6年度から令和12年度までとしまして、学校部活動の地域移行に関し、2030年時点で実現したい未来像を設定したいと思います。

もう1つ。国が定める改革推進期間でございます。こちらは、令和5年度から令和7年度までになりますが、こちらにおける具体的なアクションプログラムを示すため、計画期間を令和6年度及び7年度とします部活動地域移行ビジョン2030、実施計画2025、これを併せて策定したいというふうに思っています。それを図示したものがこの下の図になります。

2030年時点のビジョンを示しました上で、向こう2年間の実施計画2025を策定するという形でございます。

次は、4、策定の基本的な考え方・方向性でございます。

4つございます。

1つは、(1)部活動の地域移行の推進と、地域移行への過渡期における現行部活動の改善。こちらは、国や都では学校部活動の地域連携と呼んでおりますが、これらを2本の柱として進めてまいります。

2つ目です。(2)生徒にとって、これまで以上にスポーツや文化・芸術等を通じて自身が成長を果たせる機会となるよう、新たな視点で新制度を構築するというものでございます。

3つ目です。(3)国が示す改革推進期間の終期である令和7年度までに、土日における教員に頼らない指導体制の構築をめざしたいということです。

最後、4つ目でございます。

(4)部活動の地域移行を、生涯にわたりスポーツや文化・芸術、学問に親しめる生涯スポーツ社会・生涯学習社会のより一層の推進の契機とするというふうに考えています。

これら4つを大きな考え方・方向性として、今後、具体的にビジョン2030と実施計画2025、こちらを策定してまいります。

次、5になります。板橋区のSDGs戦略の視点でございます。

国の提言にもありますように、少子化の進行による児童・生徒数の減少や教師の大きな業務負担の実態などを通じた学校部活動の持続可能性に関する強い懸念、これが今回の地域移行の発端となってございます。

また、同じく提言にありますように、特に運動部活動については、指導者の質の向上であるとか、勝利至上主義に根差した指導であるとか、トーナメントを主流とした全国大会方式による練習の長時間化・過熱化、レギュラー生徒のけがや故障、補欠生徒の出場機会喪失、ジェンダーによる選択種目の制限等、このような課題

があるともされております。

さらには、人生百年時代を標榜する今日におきましては、生涯にわたり、スポーツや文化・芸術活動を楽しもうとする場合、学校教育と社会教育との連続性が課題となるということもございます。

これらの課題につきましては、SDGsの考え方との親和性が非常に高いと思っておりますので、ビジョン2030の作成に当たりましては、単に学校活動、地域活動といった考えで臨むのではなく、現行部活動が持つ諸課題を一体的に解決できるような取組とするように整理したいというふうに考えております。

6の検討体制でございます。

2つございます。

1つは、(1) 庁内検討組織でございます。

検討項目が多岐にわたるため、関係部署が連携して、組織横断的に対策を検討する必要があると考えておりますので、課長級で構成する板橋区立中学校部活動地域移行庁内検討会を設置し、検討を進めてまいりたいと思っております。

こちらは、広く、教育委員会にとどまらず、区長部局の関係課とも連携を図りたいと考えております。

もう1つは、(2) 外部検討組織でございます。

学識経験者、スポーツ・文化芸術関係団体、保護者等で構成します板橋区立中学校部活動地域移行検討会議を設置しまして、助言を得ながら前に進めたいというふうに考えております。

なお、この外部検討組織の委員構成の資料を、同じく資料の「総-1」のその下のところに計画している図がありますので、参考にご覧になってください。

学識経験者の方としましては、関東学院大学の青柳教授、同じく関東学院大学の岡部教授がなられています。

また、体育協会から、専務理事を代表として選出していただいておりますし、同じく、文化連さんからは合唱連盟の会長さんを委員として出していただいております。

その他、青少年委員会の会長、コミュニティ・スクール委員会の会長、PTA連合会は小中それぞれからの代表者、また、区民公募委員、行政側の委員になりまして、こちらにありますような会議のメンバーで臨んでいただきたいというふうに思います。

元の資料に戻らせていただきます。

7の推進体制でございます。

部活動地域移行ビジョン2030は、学校部活動改革のその先に、生涯にわたりスポーツや文化・芸術、学問に親しめる生涯スポーツ社会・生涯学習社会をめざすものでございます。ですので、この計画の推進に当たりましては、計画の策定段階から、教育、スポーツ、文化・芸術の関係各課が連携し、進めることとしたいと思います。

ですので、区民文化部さんと一体的に事実上事務局機能を一緒にやりながら、スポーツ振興課、文化・国際交流課と一緒に前を進みながら、部活動改革

ではございますが、これを契機として、その先に板橋区の生涯スポーツ社会、生涯学習社会のさらなる進展、そのようなものをめざしたいというふうに考えております。

最後のページが今後のスケジュールでございます。8でございます。

先ほど申し上げました策定方針の決定、骨子案、素案、そして原案ということ、こちらにあります4月から来年3月までの中で、それぞれ、様々な会議体、こちら教育委員会でご審議いただきまして、庁議ですとか、議会、そのようなものを経ながら、最終的には令和6年の3月には完成させて、区民の皆様に公表し、それに基づきまして、令和6年度の当初から板橋区の部活動の改革、板橋区の部活動の地域移行を進めてまいりたいというふうに考えています。

説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。長沼委員、いかがでしょうか。

長 沼 委 員 ご説明ありがとうございます。これまで、私も国の部活動改革に関する取り組みに関わってきましたが、とてもよく考えられているプランだと思って聞いていました。

特に、4の基本方針が4つあるのですが、ここは本当にこのとおりで、この考え方で進めていくことで間違いなく進んでいくと認識をしております。

また、板橋区の特徴であるSDGsをしっかりとやっていくということにも合致していて優れています。さらに区としても、これをしっかりと区長部局とも連携しながら進めていくということも明確に打ち出されていますので、あとはもうこれをどう実現するかというのをしっかりとやっていただきたいという感想になります。よろしく申し上げます。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

教 育 長 それでは、お諮りします。日程第一 議案第40号については、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定します。
それでは、以上をもちまして本日の教育委員会は閉会します。
ありがとうございました。

午前 10時 53分 閉会